

教学マネジメントの推進アクターに 求められる知識・経験

A Study on the Promotional Actors in the
Management of Teaching and Learning : Knowledge and Experience

関西大学社会学部社会学科心理学専攻 清水ゼミ卒

(当時の)学籍番号 社07-589

白藤 康成

Personality

兵庫県姫路市（のだいぶ上のほう）の出身

学士(社会学)@関西大→修士(政策科学)@同志社大→???



♥ B'z、トマト、競馬、しゃべくり漫才、かかと踏めるスリッポン

♥ 雨、多湿、バス、三半規管、黒板をひっかくと出るあの音

Job



京都産業大学学長室IR推進室
専任専門員

データドリブンな意思決定支援、
データ活用文化の醸成を担当

公務員の心理職→大学の事務
職→大学の専門職というキャリア

Research



大学の組織と、そこで働く
教職員を主な研究対象に

心理学の研究手法、経営学
の概念を用いる

研究者番号持ちの大学職員
だがしかし科研連敗中



Shirafuji Yasunari
(35)

- # 大学が教育目的を達成するために行う管理運営
- # 供給者目線から学修者目線への転換を重視
- # 学修の目標を明確に、そして成果がわかるように

- # 教育開発を担うセンター所属の教職員など
- # 教育目的の達成に向けて、支援や調整を行う
- # 執行部と学部・学科との橋渡し役

教学マネジメントの推進アクターには

どのような**知識・経験**が求められるのか？

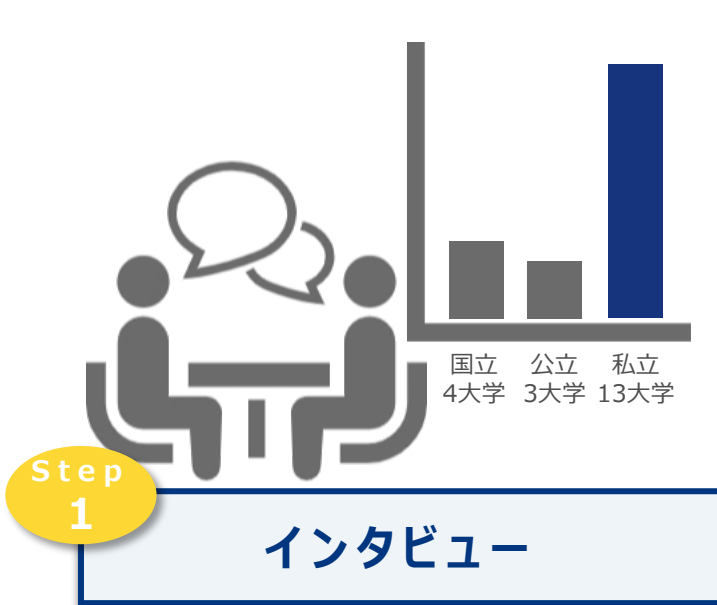
大学教員は組織の目的達成に興味がない^{【引用1】}。大学職員は教育のことは教員任せ^{【引用2】}。このままじゃ教育目的達成不可ア！

【引用1】Sporn, B. (1996). Managing university culture: an analysis of the relationship between institutional culture and management approaches. Higher Education, 32(1), 41-61.

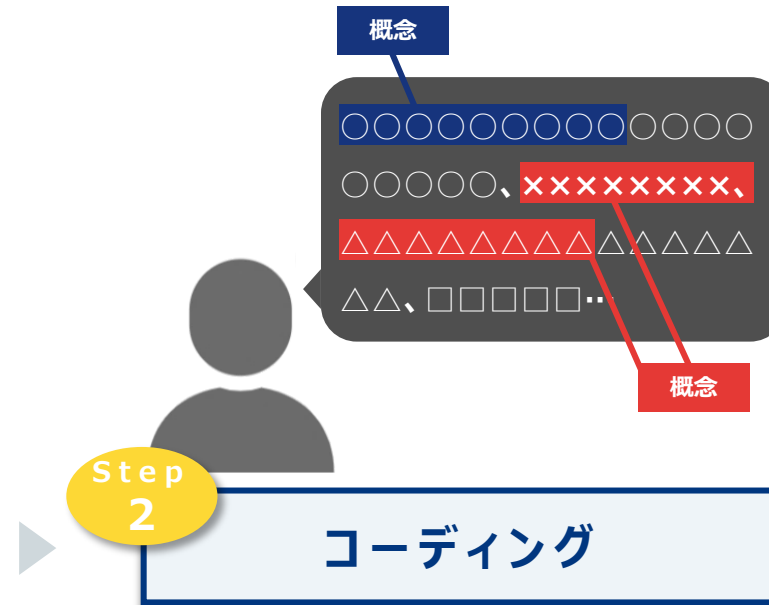
【引用2】白藤康成（2024）「大学職員に求められる顧客志向に関する一考察」教育学術新聞第2952号

⚠ JSPS科研費20K14031の支援を受けて共同研究を行い、[日本高等教育開発協会](#)のジャーナル「[高等教育開発](#)」に採録予定の共著論文の一部より抜粋して発表

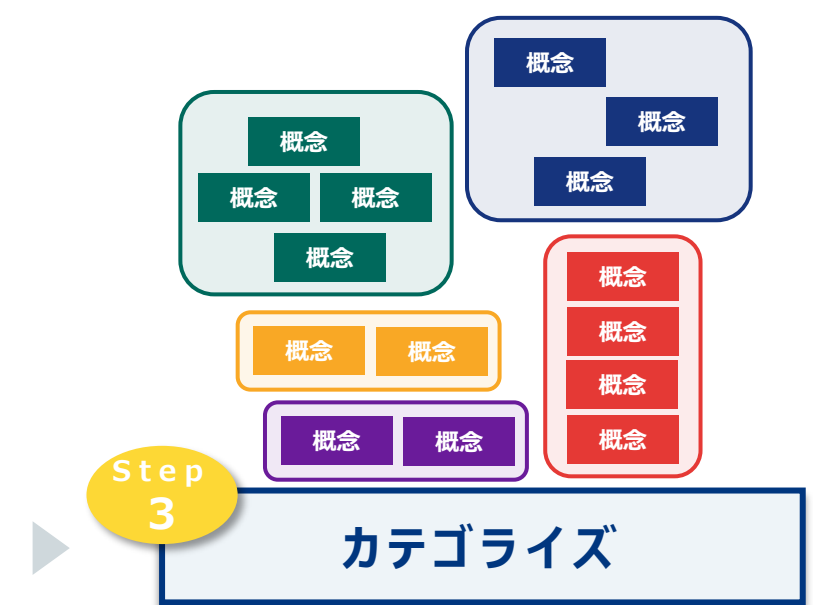
教育目的の達成に向けて、支援・調整を行う人材は重要。ただし、その人物像は明らかになっていない。



- 2022年6月～2023年2月に、20の大学の推進アクター25件に半構造化インタビュー。
- インタビューの質問項目は「教学マネジメントを推進するうえでアクターに求められる知識・経験はどのようなものか」。

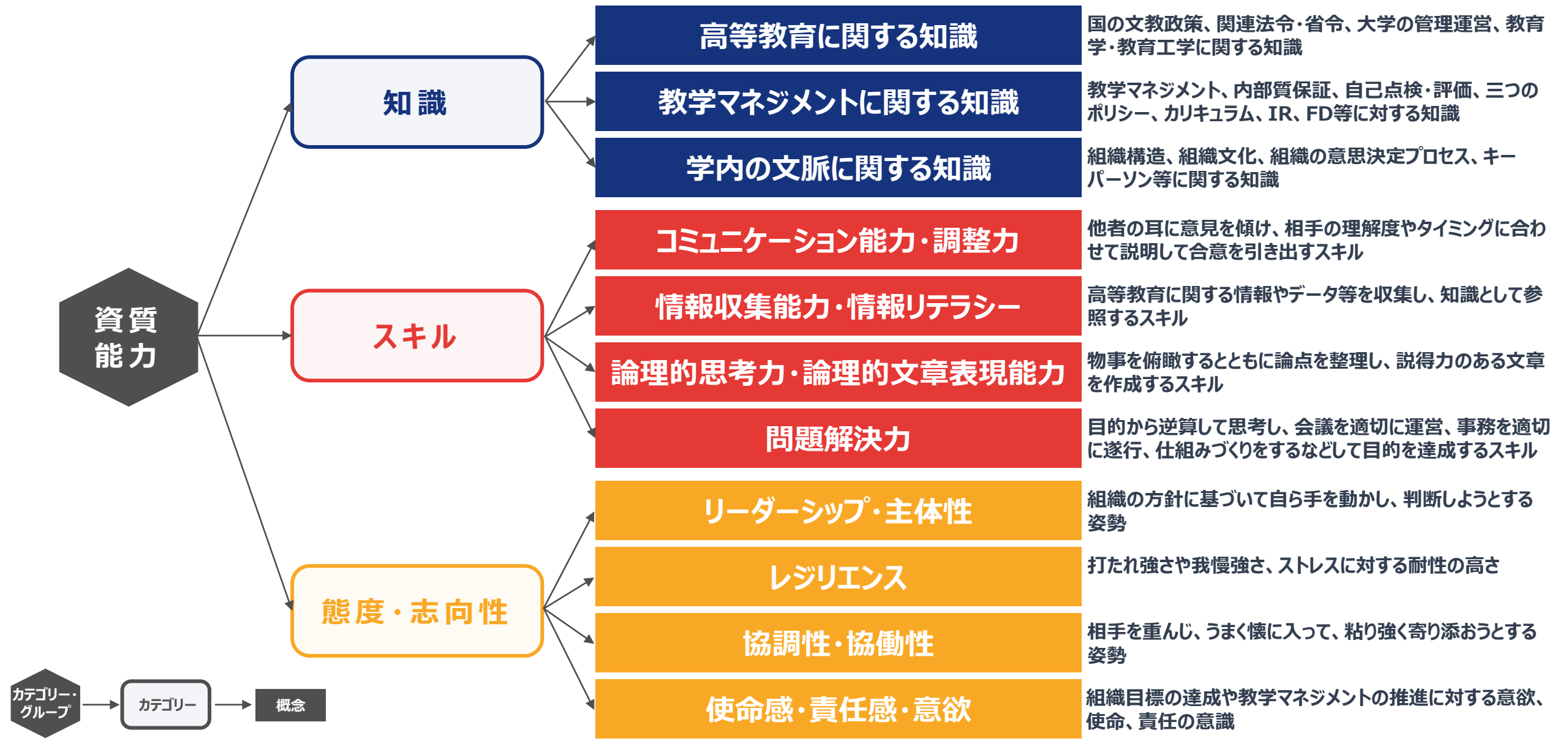


- 25件の語りを分析。意味があると思う文節で語りを区切って、その意味について解釈を行って、概念に圧縮。
- 語りと概念の整合性が取られているかについて検討を重ね、概念を精緻化。15の概念を生成。

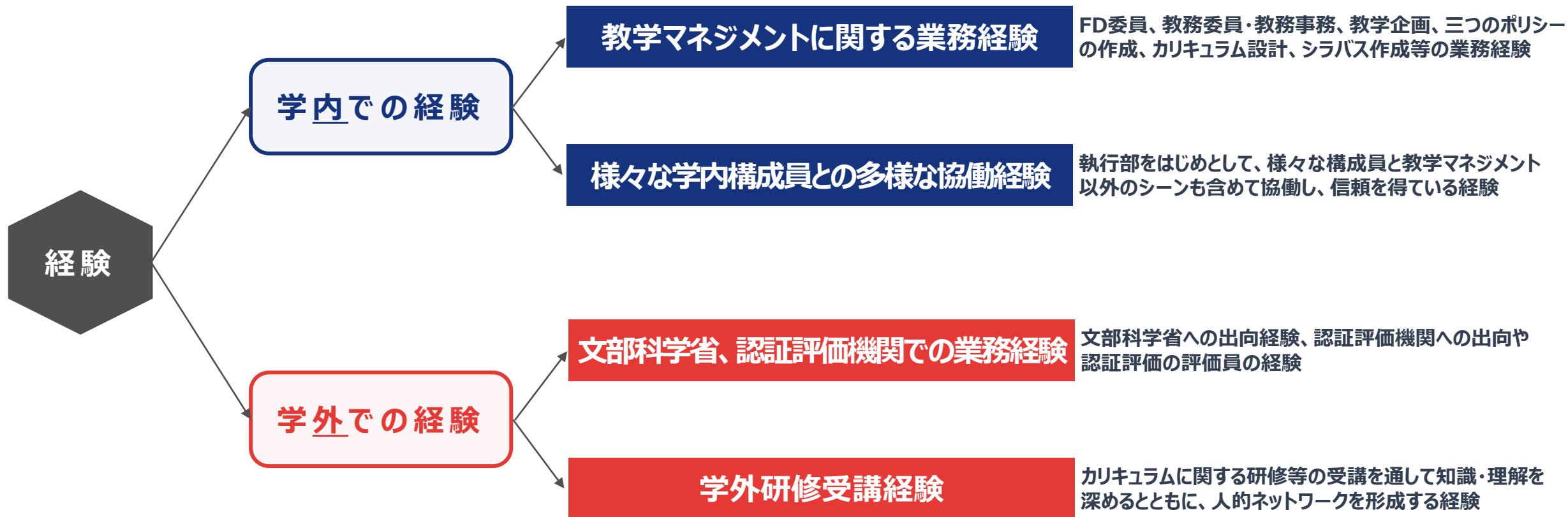


- 概念間の関係性の解釈を行い、同一のものをまとめたカテゴリーを5つ生成。
- カテゴリー間の関係性の解釈も行い、同一のものをまとめたカテゴリー・グループも2つ生成。

インタビュー＆コーディングという質的研究手法によって、推進アクターの人物像の把握を試みる。



11個の概念を生成。知識を問うたが、スキルや志向性に相当する語が多く、それらも概念化 & カテゴリー化。



4個の概念を生成。教学マネジメントに直接関わる経験だけでなく、様々な構成員と協働する経験の語り多し。



First

資質・能力

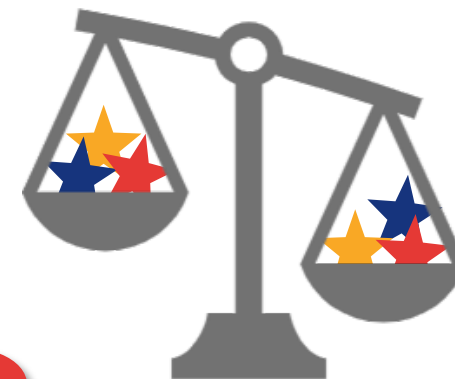
- 推進アクターには、教学マネジメントに関する知識だけでなく、学内の状況や文脈に関する知識が重要。
- 知識を深めるための情報収集力、収集した情報をわかりやすく説明する表現力、その説明の際に発生しうるコンフリクトに耐えうる打たれ強さ、これら一連のアクションの原動力となり得る使命感や主体性等も重要。求められるものは知識だけではない。



Second

経験

- 教学マネジメントに関する業務経験はもとより、その他の様々な業務経験で構成員と協働して信頼残高を増やしつつ、組織の文化や意思決定の仕組みを理解することが重要。
- 学外組織への出向や外部評価委員としての活動は有用な経験だが、負担が大きい側面も。そのようなときは研修を活用する、といった、状況に応じた使い分けも。



Finally

今後の課題

- どの資質・能力がより求められるのか、という重みづけの議論と、その資質・能力を涵養するためにどのような経験が有効か、という影響構造の把握が新たな問い。
- 推進アクターは執行部と学部・学科との橋渡し役。執行部や学部・学科も対象とした調査も行い、推進アクターに求める資質・能力や役割期待を多面的に把握していきたい。